

バイオV Bがスタート

医療材料など用途開発へ

クラゲのたん白利用

クラゲ廃棄物から新素材を抽出し、用途開発を手がけるバイオベンチャー企業「毎月(クラゲ)研究所」が設立され、業務を開始した。従来、利用されることのなかったクラゲ由来のたん白質ムチンを、医療用や食品、化粧品向け素材へ実用化

クラゲ廃棄物から新素材を抽出し、用途開発を手がけるバイオベンチャー企業「毎月(クラゲ)研究所」が設立され、業務を開始した。従来、利用されることのなかったクラゲ由来のたん白質ムチンを、医療用や食品、化粧品向け素材へ実用化

することを目的に開発を行う。計画では、3年程度で新規ムチンの量産化製造技術を確認し、4年目には売上高3億円を目指す。

毎月(クラゲ)研究所は、理化学研究所基幹研究所の丑田公規ユニットリーダーら新規ムチン発見の研究成果を基に、新素材の機能を

科学的に立証し用途開発、製品化など行う。科学技術振興機構(JST)による大学発ベンチャー創出推進の研究開発課題として採択(06年度開始)され、研究開発の参加メンバーなどが出資した。資本金3000万円、本社は神奈川県川崎市。JSTのプロジェクト段階で、設立メンバーは

科学的に立証し用途開発、製品化など行う。科学技術振興機構(JST)による大学発ベンチャー創出推進の研究開発課題として採択(06年度開始)され、研究開発の参加メンバーなどが出資した。資本金3000万円、本社は神奈川県川崎市。JSTのプロジェクト段階で、設立メンバーは

高品質ムチンの精製法、量産化のため年間処理量50t(クラゲ湿重量)の製造プラントを完成させるとともに、東海大学医学部外科学系整形外科の研究グループと協力し、変形性関節症の治療効果を動物実験で確認済み。

高品質ムチンの精製法、量産化のため年間処理量50t(クラゲ湿重量)の製造プラントを完成させるとともに、東海大学医学部外科学系整形外科の研究グループと協力し、変形性関節症の治療効果を動物実験で確認済み。

有用成分の抽出・製造プロセスなど手がける。新規ムチンは医療用材料として人工関節液の成分、また食品素材、添加物、化粧品素材のほか、肥料や飼料用途の展開も考えられるという。

有用成分の抽出・製造プロセスなど手がける。新規ムチンは医療用材料として人工関節液の成分、また食品素材、添加物、化粧品素材のほか、肥料や飼料用途の展開も考えられるという。

ムチンは、眼球表面や口腔、消化器などに存在する粘液の糖たん白質成分。新規ムチンは、大発生と駆除後の処理が問題となっていたエチゼンクラゲやミスクラゲに存在し、骨格のペプチド鎖が8つのアミノ酸からなる繰り返し構造をもつ。

ムチンは、眼球表面や口腔、消化器などに存在する粘液の糖たん白質成分。新規ムチンは、大発生と駆除後の処理が問題となっていたエチゼンクラゲやミスクラゲに存在し、骨格のペプチド鎖が8つのアミノ酸からなる繰り返し構造をもつ。

丑田環境ソフトマテリアル研究ユニット (現: 和田超分子科学研究室 丑田専任研究員)